



「笑顔とつながり」

永田台

サステイナブルスクール

No.520 5月号
横浜市立永田台小学校
TEL(714)4277
平成31年4月26日



進んであいさつ
笑顔あふれる
住みよいまちに



学校も「山笑う」の春

校長 武山 朋子

春の季語に「山笑う」という言葉があります。草木が萌え始め、新緑によって山全体がのどかに明るくなっている様子を表しています。夏の濃い緑とは違った柔らかな黄味がかった様々な緑が山を彩る様は、本当に山が笑っているかのように見え、私も大好きな光景です。

新年度が始まって3週間が経とうとしています。新しい学年、新しい学級、新しい仲間、新しい先生、新しい教室、新しい教科書……。たくさんの「新しい」に囲まれて、わくわくしてしまうのでしょうか、この2週間余りの間、出会う子どもの顔が皆、ほころぶような笑顔なのです。まさに、学校も「山笑う」といった表現がぴったりです。

朝、北門のところに立って永田中学校の方から坂を下りてくる子どもたちを迎えていると、「おはよう」と声をかける私に向かってどンドンスピードを上げてくる子どもが何人もいます。危ない、危ない、と思うのですが、ハイタッチをするための片手を挙げながら、にこにこの笑顔で駆けてくるのを見ると、なんだかこちらの方がうれしくなってしまいます。

教室を回っていると、教科書の詩を試写しているクラスがあります。1行おきに原稿用紙に書くことになっているのですが、ついつい行を空けずに書いてしまっ、ああ、失敗という姿も見かけます。きっと、せっかく書いた字を消すのがいやで、やる気がいっぺんに失せてしまうだろうな、そんな子どもの姿を私も担任時代によく見かけたな、と思いきや、目の前の子どもたちは違うのです。ゴシゴシと一生懸命に消しゴムで消して、もう一度丁寧に書き直します。ああ、新しい学年で取り組むこの課題に、誠心誠意向き合っているのだなと思うと、なんだか胸が熱くなります。廊下に掲示してある、消しゴムの跡だらけの作品が、とてもいとおしく思えてくるのです。



木々と同じように、新年度を迎えた子どもたちは今、新緑に色付いています。そして芽吹いた葉を大きく広げ、青々と茂らせ、夏の日差しを浴びてぐんぐん成長することを心待ちにしています。それが「子ども笑う、学校笑う」春なのだと感じさせるのでしょう。

春に芽吹き、成長し、栄養を蓄え、一回り成長して寒さも乗り越えていく、そのサイクルを繰り返すことのできる場としての学校でありたい。心からそう思う春。初夏も目の前です。

がっこうたんけんで校長室を訪れた1年生がびよんびよんと跳ねています。

「がっこう、たのしい？」

「もう、めっちゃたのしい！」

その答えを聞いた私も、めっちゃ楽しいのは言うまでもありません。